

# 令和元年度 農地中間管理事業実績評価書

令和2年6月25日

(公財) なら担い手・農地サポートセンター  
農地中間管理事業評価委員会

## 【事業実績】

令和元年度の農地中間管理事業では、マッチング面積は前年に比べ微減であるのに対し、マッチング件数は増加している。これは、マッチング1件当たりの面積について、水稲よりも小さい野菜等の高収益作物の件数が増加しているためであり、今後とも、サポートセンターは県と連携の上、事業実績に関してしっかりと分析するとともに、目標とする集積面積の達成に向け、より一層の努力を期待する。

## 【事業推進体制】

事業推進体制は、これまでにある程度整えられてきており、今後も体制の維持をお願いする。一方、地域ごとに異なる課題に対応した具体的な体制構築のため、市町村農地マネジメントチームにおいては、メンバーである各市町村担当や農業委員会、県関係機関等の役割分担を明確にすることが必要であり、サポートセンターには引き続きコーディネーター機能を期待する。

## 【制度周知】

これまで実施した事業周知の方法について、過去のアンケート等を分析するとともに、マッチング後の出し手及び受け手の声を広報に活用するなど、より効果的な制度周知方法を検討されたい。

## 【事業推進方法】

中山間地域への対策や基盤整備との関連、新規就農者への営農支援・技術支援も含め、地域や対象者ごとに推進方法が異なるため、市町村農地マネジメントチームにおいてしっかり検討し、関係者が役割を認識して事業の推進にあたる必要がある。

また、水利や接道といったマッチング未了農地の要因分析など、現状分析に基づき課題に対応してもらいたい。

農地中間管理事業は、堅実に継続し成果を出すことが重要であり、サポートセンターには、より良い推進方法を見いだすよう今後とも期待したい。